

1 年 次 生

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォーカルレッスン I	松山 由佳

科目概要

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々な要素を併せ持っています。そして、それらの音楽を歌うためには、作品や役柄を理解し、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標

1クォーターでは、まず声を出すことに慣れ、効果的な練習方法を知り、呼吸、発声・発音・音程・リズムの基礎を身につけます。また、2クォーターでは、1クォーターで習ったことを土台に音域や音型、母音によってバラつきがでない声で歌えるようにレッスンしていきましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミュージカルに必要な声のイメージを持つ	自分の声と音域、チェンジポイントを知り、ミュージカル発声をイメージします。レッスン曲は課題曲グループAから選びます。
第2回	無理のないのびやかな声をめざすためには①	正しい姿勢・喉の適度な解放と呼吸法を学び、毎日のルーティンとしてどんな練習方法が必要かインプットします。
第3回	無理のないのびやかな声をめざすためには②	明るい音色とクリアな母音で発声できるように、息と声のバランスをとる勉強をします。またその練習方法をインプットします。
第4回	音程・リズム・拍子・音楽記号の正しい理解	学習した声の出し方を意識しながら、楽譜を正確に理解し、正確な音程とリズム、表情記号を意識して歌います。
第5回	歌詞のつながりとメロディラインの意識	歌詞のイントネーション、(高低、強弱、まとまり)を意識しながら、メロディをなめらかに歌えるように練習します。
第6回	学内第1回歌唱オーディションにむけて	学内歌唱オーディション曲を通し、人前で緊張せずに表現することに慣れ、オーディションに必要な事を学びます。
第7回	1クォーター末歌唱試験の実施	課題曲Aグループから任意の1曲を歌い試験を行います。先生からフィードバックをもらい、弱点を理解し、次の課題曲を決めます。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、レッスンを受ける前向きな姿勢、日々の練習の度合い、また教えられた内容の理解力、その積極性や向上心を評価します。また、試験は習得した内容を実践しようとして試みているかを重要視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自分の弱点を知って、克服する練習方法	学内オーディションの講評を聞き、自分の弱点を克服するためのレッスンをします。またその練習方法をインプットします。
第2回	チェンジポイントを確認して幅広い音域に挑戦	声のチェンジポイントを確認し、声を低音から高音にスムーズに移行させましょう。その練習を繰り返し行いインプットします。
第3回	スムーズな声の移行を覚え幅広い音域に挑戦	母音や音域、上向型や下向型などの音型によってムラがでないよう、バラつきのない声を目指します。
第4回	基礎をしっかり固め公演オーディションに臨む	未経験の様々なジャンル感のある曲に挑戦し、グループ感にあった歌い方や、音色の工夫をして歌います。
第5回	あなたの得意なミュージカル曲を探そう	自分の好きな曲、持ち味を生かせる曲を探し、夏休み中に練習する宿題曲を先生と確認し、その伴奏音源を夏休み中に用意します。
第6回	春学期末試験曲で総合的にコントロール	課題曲、宿題曲から試験曲を選曲し、習得した技術が曲中でうまく使えるように自己コントロールをしていきましょう。
第7回	春学期末試験曲をブラッシュアップ	作品や時代背景、シーン、キャラクターとその心情を理解し、表現とテクニックのバランスを取って歌えるようにします。
第8回	春学期末歌唱試験の実施とフィードバック	課題曲Bグループ又は他から1曲を歌い試験を行います。先生からのフィードバックで弱点を理解し、春休みの宿題曲を決めます。

学期末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、レッスンを受ける前向きな姿勢、日々の練習の度合い、また教えられた内容の理解力、その積極性や向上心を評価します。また、試験は習得した内容が実践できているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルレッスンⅡ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルはクラシック、ロック、ソウル、ポップス等、様々な要素を併せ持っています。そして、それらの音楽を歌うためには、作品や役柄を理解し、正しい知識のインプット、無理のない発声と歌唱力、豊かな表現力が必要になります。ヴォーカルレッスンではそれらをマンツーマンで勉強していきます。

到達目標

3クォーターでは、1・2クォーターで習得した内容にプラスして声の充実、ダイナミクスなどを身につけます。4クォーターでは、英語歌詞の曲を勉強し、英語の正しい発音、それに伴う母音の音色の明暗、子音の摩擦音や曲中でのその効果的な使い方を学び、レッスンをしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	学内第2回歌唱オーディションにむけて②	学内オーディション曲(自由曲 3分程度)を選曲し、1曲を歌いきる集中力とエネルギー配分を学びます。
第2回	学内第2回歌唱オーディションにむけて③	オーディション本番を想定し、スペース感、声を出す方向を意識し、気持ちが自然に表現できるようレッスンします。
第3回	学内第2回歌唱オーディションの講評と目標設定	学内オーディション講評を理解し自分のクリアする目標をはっきり決め、課題曲Cグループから選曲しましょう。
第4回	充実した声で歌うためには①(鳴りと響き)	自分の「声の鳴り」を意識し、体の使い方を覚え、共鳴する感覚を覚え、その体の場所をインプットします。
第5回	充実した声で歌うためには②(ダイナミクス)	聞き手に届くPPからテンションの効いたffまで、はっきりダイナミクスの変化をつけて歌うことを目指します。
第6回	3クォーター末試験曲の選曲と練習	試験曲を選曲し、習得した技術が曲中でうまく使えるようにメンタル的にもテクニク的にも自己コントロールをできるようにします。
第7回	3クォーター末歌唱試験の実施とフィードバック	課題曲Cグループから任意の1曲を歌い試験を行います。先生からフィードバックをもらい、次の課題曲をDグループから決めます。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、レッスン内で声や音楽についてどう感じているかなど、その理解力、積極性や向上心を測ります。また、実技点としては、声の充実度、それが表現に繋がっているかを重要視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	英語歌詞の曲に挑戦①(日本語の母音との違い)	母音の明暗、発音するポイント、口の形、舌の位置を確認し、正しく発音して歌えるように繰り返し練習します。
第2回	英語歌詞の曲に挑戦②(日本語の子音との違い)	息のスピード、唇、舌を効果的に使い、クリアな子音を発音し、曲中で効果的に使い、練習方法をインプットします。
第3回	英語歌詞の曲に挑戦③(言葉をメロディにのせる)	歌詞の意味をしっかりと理解し、イントネーション、アクセントをメロディにのせて自然に歌えるようにレッスンします。
第4回	様々なジャンル感のある曲に挑戦①	未経験の様々なジャンル感のある曲に挑戦し、グループ感にあった歌い方や、音色の工夫をして歌います。
第5回	様々なジャンル感のある曲に挑戦②	曲の持っているグループ感、ジャンル感を保ちつつ、作品や役柄を理解して裏付けのある表現をめざします。
第6回	秋学期末試験曲で音楽構成力をアップ	課題曲Dグループ又は今年度勉強した楽曲から1曲を選曲し、試験曲とします。1曲の中で音楽を構成し、歌いきることを勉強します。
第7回	秋学期末試験曲のブラッシュアップ	学習した内容を総合的にコントロールして、集中力を持って歌いきれるように繰り返し歌い、自分のものにしていきます。
第8回	秋学期末歌唱試験の実施とフィードバック	課題曲Dグループ又は他から1曲を歌い試験を行います。先生からフィードバックで弱点を理解し、次年度に繋げましょう。

学期末試験評価方法

出席点 30% レッスンでの平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、レッスン内での積み重ね、理解力、積極性や向上心を測ります。また、試験点は、1年間学習したテクニクと表現のバランスを取って歌えているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	クラシックバレエ I	高橋利枝

科目概要

様々なジャンルのダンスの基礎となるクラシックバレエの基本を身に付けて、正しい身体の使い方を学びます。ダンスを学ぶにあたり、正しい基本姿勢を身に付けて、筋力・柔軟性・持久力を養いましょう。

到達目標

基本の立ち方、足のポジション、アームスの使い方を整理していきましょう。足先と膝の方向との関係性を理解して動いているか、脚のターンアウトが身に付いているかなど、確認していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	ダンスの基礎、基本姿勢を知り、クラシックバレエの授業での目標を考えていきます。
第2回	身体を知る	ポディーコンディショニングを取り入れた正しい身体の使い方とクラシックバレエを踊るために必要な身体の使い方を身につけます。
第3回	脚のポジションとアームスの使い方	脚の第1から第6ポジション、腕のポジションを覚えていきます。
第4回	プリエ	上半身を引き上げながらプリエ(折りたたむ)の仕方を覚えましょう。足先と膝の方向は合っているか確かめましょう。
第5回	バットマン・タンジュ	第1または第5ポジションから前、横、後ろのいずれかの方向に床を感じてすり出す動きを身につけます。
第6回	バットマン・ジュテとジュテ	大腿筋の内側を意識し、脚を前、横、後ろに床をすりながら少し浮かせ、遠くに出します。ジュテはジャンプを意味することもあります。
第7回	ロンドジャンプ・ア・テール	軸足の向きに気をつけながら股関節の動きを意識し、つま先を床から離さずに脚を回します。

クォーター末試験評価方法

基本事項(基本の姿勢・立ち方・呼吸の仕方・足のポジション・アームスのポジション等)の確認をします。バーレッスンを通して、ターンアウトを意識した身体の引き上げ方と基本的な身体の使い方を理解して体現しようとしているかどうかチェックしていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バットマン・フォンデュ	姿勢を崩さないように軸足はまっすぐ上に、動く脚と同時に動かさず動きを膝の向きに気をつけながら柔らかく動かします。
第2回	クペ、グドゥピエ、ルティレ、パッセ	ルティレとパッセ、スユル・ル・クド・ピエとクペを整理して、骨盤の向きを確認しながら、形と通り道を覚えます。
第3回	ピルエット・アンディオール	両脚で踏み切り、片脚で立って外回りに挑戦します。バーを使って正しいポジションを早めにつくります。
第4回	パドゥ・ブーレ	足踏みする動き、重心の移動をスムーズに行います。
第5回	トゥール・シェネ	シェネ(鎖)は目線をしっかり保ち姿勢を崩さないように連続的に回転していきます。
第6回	タン・ルヴェ、シャンジュマン	両脚踏み切り、両脚下りの様々なジャンプを膝の使い方に気をつけながら身体をしっかり引き上げて行います。
第7回	アッサンブレ	片脚踏み切り、両脚下りるジャンプ、空中で5番ポジションに集めます。
第8回	レバランス	舞台上での挨拶のやり方、センターでの舞台上の方向と身体の方角(クロワゼやエファッセ、エカルテ、8方向)を整理します。

学期末試験評価方法

基本事項の確認を引き続きしていきます。個々の身体の特徴(骨格・筋力・柔軟性)を把握し、日々のトレーニングが出来ているかどうか確認します。大小の跳ぶパ(動き)、回転技の仕組みと基本的な約束事項を理解出来ているかどうかチェックします。試験30% 出席点40% 平常点30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	クラシックバレエⅡ	高橋利枝

科目概要

クラシックバレエの基礎を身につけ、身体のコントロールができるようにします。正しいポジションを学びながら、テクニックと音楽性を高めていきましょう。公演に向けて舞台上での効果的な身体の使い方を研究してレベルアップを目指します。

到達目標

基本の立ち方、足のポジション、アームスの使い方を整理していきましょう。足先と膝の方向との関係性を理解して動いているか、脚のターンアウトが身に付いているかなど、確認していきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パーレッシンを考える	身体の中心を考えて引き上げることを常に考えながら動いているかどうか、先につながるテクニックの確認をします。
第2回	バットマン・フラッペ	動きのアクセントを考え、つま先を意識して床を打つ動きを習得します。
第3回	グラン・バットマン	上体の引き上げと軸足に注意して片脚をまっすぐに伸ばしたまま、前、横後ろのいずれかの方向に高く蹴り上げる動きを身につけます。
第4回	ロン・ド・ジャンプ・アン・レール	動脚を上げ、まっすぐに伸ばしたまま、つま先で空中に弧を描く動き、ひざ下を回す動きを身につけます。
第5回	アダージオ	アダージオの音楽に合わせて、ゆっくりした動きに挑戦します。デヴェロッパの動きで脚を上げて保ちます。
第6回	ピルエット①	ピルエット・アンドウ・オール(外回り)をプレパレーションを大切に身につけます。
第7回	ピルエット②	ピルエット・アンドウ・ダン(内回り)をプレパレーションを大切に身につけます。

クォーター末試験評価方法

基本事項(基本の姿勢・立ち方・呼吸の仕方・足のポジション・アームスのポジション等)の確認をします。パーレッシンを通して、ターンアウトを意識した身体の引き上げ方と基本的な身体の使い方を理解して体現しようとしているかどうかチェックしていきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グリサード／シャッセ	床を使い、重心を移動させるつなぎのバを覚えましょう。シャッセはジャンプを伴わず片脚をすり出して体重移動する動きを指す場合もあります。
第2回	ワルツステップ①	ワルツ(3拍子)のリズムにのせた動き、バランス(横のバランス)をリズムを感じて行います。
第3回	ワルツステップ②	バランスの応用を覚えます。前後のバランス、回転を伴うバランスを覚えましょう。
第4回	パ・ドゥ・シャ	5番ポジションより上体のバランスを崩さずに空中へ軽やかに跳びましょう。パ・ドゥ・シャは猫の動きという意味です。
第5回	グラン・パ・ドゥ・シャ、グラン・ジュテ	シェネ(鎖)は目線をしっかり保ち姿勢を崩さないように連続的に回転していきます。
第6回	トゥール・ピケ・アン・ドウダン	様々な作品に多く使用される連続した回転技を、目線の付け方とアームスの使い方を気をつけながら身につけます。
第7回	グランワルツ	グラン・パ・ドゥ・シャやジュテ・アントルラセを含むコンビネーションに挑戦します。
第8回	1年次のセンターレッシンまとめ	テクニックをしっかりと身につけながら、身体の方向、リズムを感じた動きができているかどうか確認していきます。

学期末試験評価方法

基本事項の確認を引き続きしていきます。個々の身体の特徴(骨格・筋力・柔軟性)を把握し、日々のトレーニングが出来ているかどうか確認します。大小の跳ぶパ(動き)、回転技の仕組みと基本的な約束事項を理解出来ているかどうかチェックします。試験30% 出席点40% 平常点30%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	シアターダンスⅠ	井上 仁司

科目概要

- ◆ブロードウェイ・ミュージカルの記録保存を目的としてアメリカで作られたトレーニングシステムです。
- ◆代表的な初期のブロードウェイミュージカル作品の振付を学びます。
- ◆「歌」「演技」も含めたダンスのトレーニングとなります。
- ◆「作品に関する知識」が必要となりますので適宜プリント資料を配布します。

到達目標

- ◆トレーニングメソッドの基礎ルーティンが正確に理解でき実行できるようにします。
- ◆題材となった「作品に関する知識」を正確に理解し説明ができるようにします。
- ◆基本を身につけたうえで「振付」を表現できるようにします。
- ◆基礎ルーティンでの歌をマスターできるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	シアターダンスの発祥。基礎ルーティンの説明、実践。 ジャック・コール「アーバンフォークダンス」について学びます。
第2回	初期のブロードウェイ・ミュージカル①	チャールストンという1920～30年代のスタイルを学びながら、実際にステップを反復練習します。
第3回	初期のブロードウェイ・ミュージカル②	ミュージカル「ボーイフレンド」からアイ・ウオントウ・チャールストン・ダンス・ウィズ・ミーの振付を学びます。
第4回	初期のブロードウェイ・ミュージカル③	パステージュという手法を学習しながら、古き良き時代とは何か、ミュージカルの変遷に合わせたダンスを学びます。
第5回	初期のブロードウェイ・ミュージカル④	ミンストレル、ボードヴィル、バーレスク、レビューについて学びます。 マイケル・キッドについて説明します。
第6回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑤	RKO,MGMというハリウッド映画に登場するブロードウェイ・ミュージカルを説明します。
第7回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑥	ミュージカル「シンギン・イン・ザ・レイン」から様々なステップを学びます。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席率50%、授業態度30%、理解度20%で算出します。
- ◆普段からの授業への取り組み方や、練習方法、ミュージカル作品への興味なども評価の一部となります。プリント資料などは大切に保管してなるべく頭の中に叩き込んでおきましょう。授業の中でもいろいろな質問をしますから答えられるようにします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑦	ブロードウェイミュージカルの代表的な演出家ジェロム・ロビンスについて学びます。トニー賞について説明します。
第2回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑧	ミュージカル「ピーターパン」からミュージカルナンバー、アガワグを学び実際に踊ってみます。
第3回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑨	振付を確認し、反復練習、躍り込むことでキャラクターの研究ができ、表現を学べます。
第4回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑩	ミュージカル「王様と私」からポルカを学び、クロスフロアーで実際に踊っていきます。
第5回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑪	ミュージカルナンバー「シャルウィ・ダンス」の実践をします。カップリングの難しさを体験しながら、力をつけていきます。
第6回	初期のブロードウェイ・ミュージカル⑫	ダンスナンバーとコスチュームの相互関係について学習してきます。また、小道具などの扱いも実践します。
第7回	ミュージカル・ナンバーの発表①	実際にステージに立ち、観客の前で表現することでこれまで学んだ事を再認識し、目標にします。
第8回	ミュージカル・ナンバーの発表②	学科公演で学んだ全ての事を正確に理解し、自分の足りないところ、強化していくべき部分を発見します。

学期末試験評価方法

- ◆出席率、授業態度、理解度、実践能力を見ます。
- ◆ペーパーテスト、実技テストを行います。
- ◆ペーパーテストは配布したプリントから出題します。実技テストは授業の中での基礎ルーティン、コンビネーションが主体となります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	シアターダンスⅡ	井上 仁司

科目概要

- ◆代表的な黄金期のブロードウェイ・ミュージカル作品を学びます。
- ◆作品の概要をしっかりと学び取りながら、振付スタイルを反復練習します。
- ◆振付がストーリーを進行する役割とはどういうことかを正しく理解します。
- ◆踊るだけではなく何を表現するのかを学びます。

到達目標

- ◆トレーニングメソッドの基礎ルーティンが正確に理解でき実行できるようにします。
- ◆題材となった「作品に関する知識」を正確に理解し説明ができるようにします。
- ◆基本を身に着けたうえで「振付」を表現できるようにします。
- ◆どんな「衣装」を身に着けているのかもイメージします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル①	ブロードウェイミュージカルの成功者、マイケル・ベネットについて学習します。
第2回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル②	ミュージカル「コーラスライン」からミュージカル・ナンバーを学びます。歌も歌いますから歌の練習も必要です。
第3回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル③	ジョン・ティラーという振付師が考案したティラー・ラインについて学びます。空間管理能力が必要になります。
第4回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル④	構成・フォーメーションを学びながら、空間管理能力、空間制御能力ということを説明していきます。
第5回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑤	ポップ・フォッシーについて学びます。「フォッシースタイル」と呼ばれているダンスの振付の特徴を実践していきます。
第6回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑥	ミュージカル「バジャマゲーム」からダンスナンバーを学びます。帽子などの小道具も必要となります。
第7回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑦	ハットトリック、ダウンヘッドウォークについて詳しく学びます。少々難しいので集中して練習します。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席率50%、授業態度30%、理解度20%で算出します。
- ◆普段からの授業への取り組み方や、練習方法、ミュージカル作品への興味なども評価の一部となります。プリント資料などは大切に保管してなるべく頭の中に叩き込んでおきましょう。授業の中でもいろいろ質問をしますから答えられるようにします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑧	ミュージカル「シカゴ」からオープニングダンスナンバーを学びます。手の使い方に特徴があるので、反復練習が必要です。
第2回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑨	サインハンドに代表されるフォッシー・スタイルを学びます。これも手の使い方に特徴があるので、かなりの練習が必要です。
第3回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑩	スウィングという1950年代のダンススタイルを学びます。グループ、ビートなど打楽器系の音の感じ方が必要です。
第4回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑪	リンディー・ホップ、ジャンピング・ジャイブ、ハッスル、シムシムなどのステップを学びます。
第5回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑫	ミュージカル「ヘアー・スプレイ」からダンスナンバーを学びます。ここまで習得したテクニックがどこまで使えるようになったでしょう。
第6回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑬	ハッスル、ジルバなどのペアダンスを学びます。ペアリングという言い方もあるミュージカルならではのスタイルです。
第7回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑭	1年間を振り返り、様々なミュージカルナンバーを踊ってみましょう。一年を振り返ることを「レビュー」といいます。
第8回	黄金期のブロードウェイ・ミュージカル⑮	1年の集大成としてミュージカルナンバー、ダンスシークエンスを卒業公演で発表します。

学期末試験評価方法

- ◆出席率、50%授業態度、理解度、実践能力50%を見ます。
- ◆実技テストを行います。実技テストは「卒業公演」で発表するダンスナンバーの振付が正確に理解でき、歌も併せて正確に表現できているかがポイントとなります。デイリートレーニングとして個々での練習が必要となります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	タップダンス I	生坂 昌子

科目概要

まずは躊躇せず音を出してみます。足で音を出してリズムを取るという事に慣れ、足首のリラックスとコントロール、つま先を押さえる感覚、付け根から足先までの連動を覚えていきます。

到達目標

足の付け根から足首の連動を覚え、スムーズに動かす事が出来、鳴らしたいリズムを音楽に乗って鳴らせるように練習します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	タップシューズを鳴らしてリズムを打つ	タップシューズを履いて、躊躇せず音を出してみます。音楽に乗って足でリズムを打ってみます。
第2回	スタンプ、ボールヒール、クランプロール	右左、ボール、ヒールの4つを使ってリズムを打ってみます。
第3回	シャッフル	足首のリラックスと足の動かし方を覚えます。
第4回	プレーンタップ	3連のリズムと足の動かし方、体重移動を覚えます。
第5回	フラップ	足の付け根から足首までの連動と、つま先の押さえてからリラックスする感覚を覚えます。
第6回	ランニングフラップ	体重移動と足の動きを覚えます。
第7回	基本ステップのまとめ	スタンプ、ボールヒール、クランプロール、シャッフル、プレーンタップ、フラップ、ランニングフラップを音楽に合わせて踏みます。

クォーター末試験評価方法

足の動かし方が正しいかどうかと音楽に合わせてリズムを打つ事が出来ているかを評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フラップコンビネーション1	フラップとスタンプを組み合わせて体重移動の練習とともに、音楽に乗ってリズムを取ります。
第2回	フラップコンビネーション2	フラップとスタンプの組み合わせで色々なリズムで踏んでみます。
第3回	ヒールタップ	足首から足の付け根に向かって引き上げて音を出す。足の連動を覚えます。
第4回	ウイング	足の動きを覚える。押さえた反動でリラックスする感覚を覚えます。
第5回	クロスフロア1	クランプロール等、ステップを踏みながら歩きます。
第6回	クロスフロア2	ターンをしながらフラップとヒールで鳴らします。
第7回	クロスフロア3	フラップと色々なステップの組み合わせを踏みながら歩きます。
第8回	試験	フラップコンビネーションを含むクロスフロアを音楽に合わせて踏んでみましょう。

学期末試験評価方法

足の付け根から足首の連動がスムーズかどうかと、リズムが正確かどうかを評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	タップダンスⅡ	生坂 昌子

科目概要

今までに習得したステップを身体全体でダンスとして表現出来るように、足だけではなく、アームス、上半身、表情も意識して踊ってみましょう。タップを「音楽」と「ダンス」両方で楽しみましょう。

到達目標

身体の使い方が正しく、見た目も美しく、出したい正しいリズムを足だけでなく音楽に乗って踊りながら鳴らせるようになる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	タイムステップ1	ステップを覚える
第2回	タイムステップ2	ブレイクステップを入れてつなげてみる
第3回	タイムステップ3	音楽に合わせて踏む
第4回	タイムステップ4	シャッフルから入るパターンで練習
第5回	クロスフロア4	色々な方向に進む
第6回	バックステップ	足の動き、重心を覚える
第7回	タイムステップのまとめ	タイムステップを音楽に合わせて踏む

クォーター末試験評価方法

ステップを正確に踏めていることと、音楽に合っていてリズムカルかどうかを評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クロスフロア5	3連のリズムの練習
第2回	クロスフロア6	色々なフラップコンビネーションを使って
第3回	コンビネーション1	今までに習得したステップを組み合わせて踊る
第4回	コンビネーション2	色々なリズムを感じて踊る
第5回	コンビネーション3	上半身も意識して、よりダンスとして踊る
第6回	コンビネーション4	表情もつけて人に見せる事を意識して踊る
第7回	コンビネーション5	楽しく踊る
第8回	試験	人に見せる事を意識して、短い振りを踊る

学期末試験評価方法

タップをダンスとして表現できているかを評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	シーンスタディ I	大谷美智浩

科目概要

既成ミュージカルの中からワンシーンを抜粋し、配役・読み合わせ・歌稽古・振り付け・立ち稽古・通し稽古と、本番さながらの稽古プロセスを体験することで、ミュージカルの舞台に立つために必要な基礎技術を、歌・ダンス・演技の三点から総合的に学びます。

到達目標

まずは正確な音程を確認し無理のない発声を身に付けて、与えられた振付の課題クリアを目指します。その上で演技の要素を加え、「刺激と反応の関係」をキープしてパフォーマンスを行い、それを反復練習する事で歌唱・ダンス・演技の総合的なスキルを習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌唱力・ダンスレベルチェック	まずは各々の経験を踏まえて各自の歌唱力とダンスレベルをチェックし、今後の指針を定めます。
第2回	作品解説・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、まずは台詞を喋り、歌詞を歌う感覚を体験します。
第3回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感を体験します。
第4回	ミザンセーヌ・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第5回	歌稽古・振り固め・演技指導	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第6回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	第1クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、クォーター末試験とします。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では、与えられた課題へどうアプローチしたかを重要視します。経験・未経験に係わらず、苦手意識を克服した日々の努力の積み重ねが最大の審査対象です。さらに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品解説・歌稽古・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、歌と台詞を確認し、状況をイメージします。
第2回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	ミザンセーヌ・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第4回	歌稽古・振り固め・演技指導①	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第5回	ビデオ撮影・視聴・合評会	中間発表として、チームで課題のワンシーンを演じ、撮影した映像を確認して、それぞれに意見交換します。
第6回	歌稽古・振り固め・演技指導②	更に反復練習を繰り返すことで各々の課題をクリアし、基礎テクニックの再確認とレベルアップを目指します。
第7回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	発表(試験)	第2クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、学期末試験とします。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では音程・台詞・振り付けの正確さなどの個人スキルは勿論のこと、チームワークにおける役割認識の有無や貢献度も、大きな審査対象として評価します。さらに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	シーンスタディⅡ	大谷美智浩

科目概要

春学期で習得したテクニックを磨き上げ、より高次へのスキルアップを目指します。与えられるのを待つ姿勢から自分から求め掴み取る姿勢へとパラダイムシフトさせることで、「頭脳労働者」としての俳優の側面を強化し、パフォーマンスをより深く研究します。

到達目標

各人で「待つ」から「準備する」への意識改革を行い、独力での譜読みや音取り、台詞のサブテキストまでの読解力を目指します。その上でシーンを把握しシチュエーションをイメージして、歌唱・演技・ダンスの課題を正確にクリアしたパフォーマンスが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品解説・歌稽古・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、歌と台詞を確認し、状況をイメージします。
第2回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	ミザンセーヌ・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第4回	歌稽古・振り固め・演技指導①	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第5回	歌稽古・振り固め・演技指導②	更に反復練習を繰り返すことで各々の課題をクリアし、基礎テクニックの再確認とレベルアップを目指します。
第6回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	第3クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、クォーター末試験とします。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では音程・台詞・振り付けの正確さなどの基本スキルは勿論のこと、「待つ姿勢」から「求める姿勢」への意識改革を大きな審査対象として評価します。さらに授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品解説・歌稽古・歌入り読み合わせ	作品の背景や世界観、テーマなどを学んで読み合わせを行い、歌と台詞を確認し、状況をイメージします。
第2回	配役オーディション	課題を確認・練習して、オーディションを行います。一人ずつパフォーマンスを行う事で、その緊張感との付き合い方を学びます。
第3回	ミザンセーヌ・振り付け	演出された位置関係と動線から「場所の力と関係性」を学び、振り付けをメモリーしてシチュエーションを確認します。
第4回	歌稽古・振り固め・演技指導①	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第5回	ビデオ撮影・視聴・合評会	中間発表として、チームで課題のワンシーンを演じ、撮影した映像を確認して、それぞれに意見交換します。
第6回	歌稽古・振り固め・演技指導②	更に反復練習を繰り返すことで各々の課題をクリアし、基礎テクニックの再確認とレベルアップを目指します。
第7回	通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	発表(試験)	第4クォーターの研究発表として、個人、もしくはチームで課題のワンシーンを発表し、学期末試験とします。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

1年間の総決算として、総合的な基本スキルのレベルを審査します。その上で、授業に向けての事前準備や課題に対するアプローチなどの「マネジメント能力」の有無と、授業態度や出席状況などを総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	演技基礎Ⅰ	大谷美智浩

科目概要

前期は「活字の肉声化」をテーマに、正しい台詞の覚え方を身に付ける事で、内容の理解を深めると共に活字からの解放を体験して、「生きた言葉」とは何なのかを学びます。

後期は2人ずつのペアを組み、ダイアログを通して台詞の交流を学びます。

到達目標

台本に書かれた活字をただ覚えた「貼り付けた台詞」ではなく、内容を理解し、言葉を意識に深く刻み込む「活字の肉声化」と言うプロセスを通して、活字から解放された演技を目指します。更に、台詞の正確さや発語の明瞭さなど、俳優にとって必要な基本スキルを習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	台詞の覚え方①概略説明	台詞の覚え方を通して、活字の肉声化や刺激と反応の関係、フレージングなどの概略について説明します。
第2回	台詞の覚え方②刺激と反応	「イメージ記憶」のエクササイズを通して、刺激に応じてアクションが起きる関係性を学び、それを台詞に応用してみます。
第3回	台詞の覚え方③マイワード	言葉の始まりには必ずイメージがあると言うメカニズムと、台詞を自分の言葉で言い換えるテクニックを学びます。
第4回	台詞の覚え方④フレージング	台詞を文節に分けてその語頭に意識を向けるテクニックと、その文節へのニュアンスの込め方について学びます。
第5回	台詞の覚え方⑤実習Ⅰ	例題の中から自分の課題を選択し、これまでに学んだスキルを使って「活字の肉声化」を実習します。
第6回	台詞の覚え方⑥実習Ⅱ	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第7回	発表(試験)	刺激と反応の関係、フレージング、語頭アクセントなどのスキルを再確認してそれぞれの課題を発表します。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技ではテキスト内容の理解度を重要視します。ただ台詞を覚えるだけではなく、どれだけ内容を理解しているか、さらには刺激と反応の関係性、発語の明瞭さ、台詞のフレージングなど、言葉についてのスキルを総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	落語芝居①読み合わせ	DVDを視聴後テキストを通して読み、試験課題のブロックを選択してペアを組み、読み合わせを体験します。
第2回	落語芝居②粗通し	台詞を自分の言葉で言い換える「マイワード」テクニックを使って立ち稽古を通してみます。
第3回	落語芝居③フレージング	台詞を文節に分けてその語頭に意識を向けるテクニックと、その文節へのニュアンスの込め方を再確認します。
第4回	落語芝居④立ち稽古	刺激と反応の関係性を確認する「背面チェック」のテクニックを学び、刺激があって行動するプロセスを確認します。
第5回	落語芝居⑤ビデオ撮影	各ペア毎に個別練習を重ね、中間発表として通し稽古を行い、それをビデオ撮影して記録します。
第6回	落語芝居⑥ビデオ視聴・合評会	ビデオに記録した各ペアの通し稽古を視聴し、それぞれに意見交換して各々のパフォーマンスを確認します。
第7回	落語芝居⑦通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	発表(試験)	「刺激と反応の関係」や「フレージング」など、前期で学んだスキルに加えて「会話のテンポ」にも意識を向けて発表します。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では会話のテンションとテンポ、タイミングを重視します。アドリブに走らない「テキストの正確さ」を審査し、その上で前期の課題であった「言葉のスキル」に授業態度や出席状況を加味して、総合的に評価します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	演技基礎Ⅱ	大谷美智浩

科目概要

前期は、春学期で習得したスキルを駆使して読解力を深め、「サブテキスト」や「欲求のエネルギー」などの考察を通して、脚本の分析方法を学びます。
後期は、実際の上演稽古をイメージして、「抜き稽古」「通し稽古」を繰り返す事で演技を掘り下げます。

到達目標

刺激と反応の関係性を確認する「背面チェック」や発語を明瞭にする「語頭アタック」、ニュアンスを豊かに広げる「フレージング」などの基本的なスキルを使って複雑な心理状況や役のエネルギーを読み取り、「シチュエーションの中に存在する」演技を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	脚本分析①読み合わせ	オリジナル脚本を通して読み、その中で試験課題のブロックを選択してチームを組み、各組での読み合わせを体験します。
第2回	脚本分析②サブテキスト	脚本分析をその字面だけに留めず、裏側を読み、行間をイメージする「サブテキスト」のテクニックを学びます。
第3回	脚本分析③フレージング	台詞を文節に分けてその語頭に意識を向ける「語頭アタック」と、その文節へのニュアンスの込め方について再確認します。
第4回	脚本分析④刺激と反応	刺激と反応の関係性を確認する「背面チェック」のテクニックで、刺激があつて行動するプロセスを再確認します。
第5回	立ち稽古①粗立ち稽古	台詞を自分の言葉で言い換える「マイワード」テクニックを使い、大まかな立ち稽古で通してみます。
第6回	脚本分析⑤台詞の掛け合い	テキストを放して「台詞の掛け合い」を体験します。動きは付けず、正確な台詞とニュアンスの表現を確認します。
第7回	発表(試験)	刺激と反応の関係、フレージング、語頭アクセントなどのスキルを再確認して、それぞれ「台詞の掛け合い」を発表します。

クォーター末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では春学期に学んだ台詞スキルの習得度を重視します。その上で、より豊かで深みのあるニュアンスの模索を行っているかどうかを評価し、更には学習態度、出席状況なども加味して総合的な評価を行います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	立ち稽古②ミザンセーヌ	基本的な演出に則った位置関係をチーム毎に話し合い、場所の力と関係性が演技に及ぼす影響を学びます。
第2回	立ち稽古③小返し	繰り返し稽古する事でミザンセーヌを確認し、各々の演技を掘り下げて、シチュエーションの創造を学びます。
第3回	立ち稽古④スロースルー	スローモーションで通し稽古を行う事で、必要な筋肉の動きを実感し、筋肉の解放と集中を体験します。
第4回	立ち稽古⑤クイックスルー	スローで体感した筋肉の動きを、今度は倍速の速さで体験します。同時に台詞も早回しで行い、無駄な間を省いて行きます。
第5回	ビデオ撮影立ち稽古⑥	各チーム毎に個別練習を重ね、中間発表として通し稽古を行い、それをビデオ撮影して記録します。
第6回	立ち稽古⑦ビデオ視聴・合評会	ビデオに記録した各チームの通し稽古を視聴し、それぞれに意見交換して各々のパフォーマンスを確認します。
第7回	立ち稽古⑧通し稽古	課題実習の最終確認を通して、これまでに学んだスキルの復習とレベルアップを目指します。
第8回	発表(試験)	刺激と反応の関係やフレージングなどの前期で学んだスキルに加え、筋肉の解放を課題にして「通し稽古」を発表します。

学期末試験評価方法

実技60%・出席状況20%・授業態度20%

実技では「求められている表現」の認識度を重視し、「シチュエーションの中での存在感」を自主的に模索しているかを重点的に審査します。更には学習態度、出席状況なども加味して、1年間の総まとめとして総合的な評価を行います。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	舞台発声基礎	野口浩志

科目概要

ミュージカルには様々なジャンルの楽曲があり、発声法もジャンルに応じたテクニックが必要です。同時に、鮮明な発音やことばのイントネーションによる内容表現も要求されます。この授業ではソロの楽曲を用いて、基本的な発声と自然な歌唱表現をめざします。

到達目標

歌には“ことば”があり“物語”があります。楽曲が持つ【想い】を自分のものとして感じ、ことばと音楽とのコラボレーションの中で、質の高い表現の充実をめざします。将来、自分の知識・技術をもって応用できる歌唱の基礎を身につけていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基本的な発声の仕組みを、客観的に理解します	人の声を縦笛(リコーダー)に置き換えて、発声の仕組みを具体的に理解し、鳴りの良い声をイメージします
第2回	顔の筋肉を使い、明るい鮮明な発音をめざします	口角を上げることで明るく鮮明な発音を意識し、声をつかむ『角度(高い位置)』をイメージします
第3回	息漏れの原因を理解し、密度の高い音色をめざします	息漏れの原因はただ一つ、吐く息の量が多過ぎるからです。声の『鳴り』と息量のバランスを図ります
第4回	意志をもって『張りのある声』をめざします	水道の蛇口と水の量に例え、器と量との理想的なバランスを具体的にイメージし、充実した声をめざします
第5回	ことばのイントネーションを意識して音楽を表現します I	歌のメロディーは、ことばのイントネーションを活かして創られてることを理解し、表現に応用します
第6回	発声におけるチェンジ・ヴォイスを理解します	だれでもが悩んでしまうチェンジ・ヴォイスについて理解し、具体的な対処法をイメージしていきます
第7回	これまでの体験をもとに、気力充実での演奏をめざします	多少のトラブルに気を囚われることなく、楽曲の持つ【想い】を言葉やメロディーラインにのせて歌います

クォーター末試験評価方法

これまで体験した楽曲の中から、1曲を選択して暗譜で演奏してください。鳴りの良い歌声、鮮明な言葉を意識しての演奏をめざしてください。また、ことばのイントネーションや自然な音楽表現を評価します。無難にこなすのではなく、積極的なトライを期待しています。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディーラインは曲線であることを理解します	楽譜は、音の高低と時間軸を合理的に表したもので、音楽やことばが持つ波や揺れは、演奏者が創るものです
第2回	内容表現の基本はスピードのコントロールです	喜怒哀楽を表現する息づかいにはスピードに関わる視点が大切です。音楽表現に於いても同様のことが云えます
第3回	距離感や方向性、スペース感などを感じ、表現の中を拡げます	ことばや音楽から感じとれる雰囲気、具体的な距離、方向、スペースなどに置き換えて具体的に表現を構築します
第4回	ことばのイントネーションを意識して音楽を表現します II	ことばのイントネーションを活かした自然な表現と、音楽づくりの質の向上を探求します
第5回	音楽の揺れを客観的に理解し表現に応用します	メロディーにおける骨組みと装飾部分を区別し、音楽の波や揺れを把握し表現を拡大します
第6回	曲中のストーリー展開を把握して音楽構成を考えます	作曲家の指示は勿論、それ以上にストーリー展開から導かれる音楽構成を、指揮者的な立場から考えます
第7回	観客を前にしたステージを意識して舞台に臨む準備をします	実際のステージに臨んだ時のシミュレートを実施し、立ち姿や視線を含むパフォーマンスを身に付けます
第8回	役者として、表現者としてのステージを創ります	声づくり、表現づくりを元にした総合的なテクニックと、強い精神力に支えられた表現者としての完成度を上げます

学期末試験評価方法

これまで体験した楽曲の中から、1曲を選択し暗譜で演奏してください。この授業の内容は歌唱力や表現をアップさせるためのテクニックです。また、その感じ方も人それぞれで微妙に違っているのは当然です。大切なのは言葉と音楽のコラボレーションによる表現の追及です。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルアンサンブル I	若林 裕治

科目概要

グループでひとつの物を完成させるには、お互いの協力と各自の責任感がポイントになります。アンサンブルは一人では出来ません。上手く行かないこともあると思いますが、根気良く取り組みましょう。前期に身に着けた発声法を使いながら、より実践的な曲創りを心がけましょう。

到達目標

アンサンブルはチームワークです。またチームワークはアンサンブルの強化にとっても重要な要素です。舞台の上には様々なアンサンブルがあります。それらをミュージカルナンバーを題材に乗り越える能力を身に付け、各自の音楽ジャンルで生かす事がこの授業の最大の目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	正確に音を取るために	ハモることの楽しさを再発見！前期に学習した発声法を使って実践しよう。
第2回	音楽づくり	各パートの役割とは？曲の内容を理解することとは？
第3回	ア・カペラのアンサンブル	2声のエチュードを使用してハモりを体感！音を合わせることにについて考えよう。
第4回	より正確に	グループ別に練習、発表。各自がグループ内で役割を果たせているか？
第5回	よく聴こう！	聴くトレーニング。3声のエチュードを使用して、自分の声や他人の声をよく聴こう。
第6回	ピッチと発声の密接な関係について	同じ発声法の共有と統一された音色のつくり方。グループごとの完成度をチェック。
第7回	グループ発表	クォーター末試験。グループごとに発表します。

クォーター末試験評価方法

発声法を生かして統一されたピッチや音色を如何につくりだすか、皆で力を合わせて考え工夫して完成を目指してください。その完成までのプロセスも評価の対象になります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミュージカルのアンサンブル	ミュージカルナンバーを歌う上で必要なアンサンブル能力とは何かを考えます。
第2回	リズム感を養う	ミュージカルナンバーを歌う上で必要なリズム感についてを考えます。
第3回	歌詞の内容に注目	正確な内容の把握に裏付けられる音楽表現、テキストの理解力をチェック。
第4回	緻密な設計図を作ろう！	計画的な音楽表現プランを作成してみよう！プラン作成方法を解説します。
第5回	楽曲をより深く掘り下げる	アンサンブル能力も内容の把握もより深く掘り下げ、音楽の表現に繋げよう！
第6回	実践的なアンサンブル	ステージ上でパフォーマンスすることを想定した自分自身の見せ方や伝え方について。
第7回	公演、オーディション等に向けて	学科公演やオーディション等に向けて自分の力を出し切るためには？
第8回	本番(期末試験)	本番を意識した、より実践的に楽曲のトータル的な完成度を評価する、学期末試験

学期末試験評価方法

ミュージカルには、実に様々なアンサンブルがあります。学科公演やオーディションでのパフォーマンスを視野に入れた、発表形式で行います。悔いのないようにしっかり準備をして臨みましょう。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	テーマパークパフォーマンスⅠ	菅未来

科目概要

近年、エンターテインメント業界では人気のあるジャンルとなっています。テーマパークで働くことを目標にしている人にとっては欠かせない授業となります。単にスタンダードなジャズダンスととらえられがちですが、最近では様々なジャンルのダンスも取り入れられる様になってきました。また、演劇的要素も必要になってきています。

到達目標

1クォーターでは、様々なテーマパークの特性を理解していきましょう。そして2クォーターでは、数々あるテーマパークの特徴を取り入れたダンスナンバーや、歌を歌いながら踊ります。実際のレッスンでしっかりとテーマパークパフォーマンスの基礎のスキルを身に付けていきましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業概要	年間を通しての授業で行う内容を説明します。ノートを取りましょう。
第2回	テーマパーク①	テーマパークとはどのようなところかを学んでいきます。ノートを取りましょう。
第3回	テーマパーク②	テーマパークにはどのようなジャンルの仕事があるのかを学びます。ノートを取りましょう。
第4回	テーマパーク③	テーマパークで実際に使用される用語や音楽はどのようなものがあるのかを学びます。
第5回	テーマパーク④	数あるそれぞれのテーマパークはどのようなものがあるのかを学びます。
第6回	テーマパーク⑤	グループにわかれて出演者役とゲスト役にわかれてグリーティングを実際に行います。
第7回	テスト	グループにわかれて出演者役とゲスト役にわかれてグリーティングを実際に行います。

クォーター末試験評価方法

出席50%、平常40%、テスト10%で算出します。テーマパークエンターテインメントとはどのようなことなのか理解できたかを評価していきます。また、授業での積極的な取り組みが評価に繋がっていきます。しっかりと授業内容を理解していきましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	テーマパークダンス①	テーマパークで使用されたテーマソングを実際に覚えて歌います。
第2回	テーマパークダンス②	テーマパークで使用された曲に合わせて振付を覚えて実際に踊ります。
第3回	テーマパークダンス③	スタンダードなジャズナンバーの振付を覚えて実際に踊ります。ジャズダンスのテクニックを学びます。
第4回	テーマパークダンス④	歌詞のあるナンバーを歌に合わせた振付を覚えて歌を歌いながら踊ります。
第5回	テーマパークダンス⑤	ラテンナンバーに合わせた振付をラテンのイメージを理解しながら踊ります。ラテンのテクニックを学びます。
第6回	テーマパークダンス⑥	スローナンバーに合わせた振付を曲のイメージを理解して踊ります。ジャズダンスのテクニックを学びます。
第7回	テーマパークダンス⑦	帽子や、ロングスカートを身に付けて小道具の特性を生かした振付を踊ります。
第8回	テスト、発表	テーマパークで実際に使用された曲の振付を覚えて歌を歌いながら踊ります。

学期末試験評価方法

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。テーマパークで使用された曲のイメージを理解して踊り、どれだけテーマパークダンスが身に付いたかを評価していきます。また、授業での積極的な取り組みが評価に繋がっていきます。しっかりと授業に取り組んでいきましょう。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	テーマパークパフォーマンスⅡ	菅未来

科目概要

テーマパークパフォーマンスは単にダンスを踊るだけではなく、キャラクター・MCといったテーマパークにとってとても重要な分野もあります。キャラクター・ダンサー・シンガー・MCはテーマパークの作品のなかで、1つの登場人物として存在してそのテーマ性を乱すことなく来場してきたゲストに感動や共感をしてもらう役割として存在します。

到達目標

MCやキャラクターのイメージをしっかりと理解して演じる事を身に付けていきましょう。4クォーターでは、卒業公演の演目をリハーサルしていきます。今までの授業でおこなったことを理解してリハーサルに臨みましょう。本番の卒業公演では演目の登場人物になりきってパフォーマンスしましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	キャラクター&MC①	キャラクターやMCとはどのようなものなのか、実際のショーではどのような役割なのかを学びます。
第2回	キャラクター&MC②	キャラクターやMCとはどのようなものなのか、実際のショーではどのような役割なのかを学びます。
第3回	キャラクター&MC③	グループにわかれてMC役、キャラクター役に分担して実際にグリーティングをします。
第4回	クリスマスショー①	クリスマスショーで使用するナンバーのイメージを理解しながら振付を覚えて踊ります。
第5回	クリスマスショー②	クリスマスナンバーをグループにわかれてフォーメーションを覚えて踊ります。
第6回	クリスマスショー③	クリスマスナンバーをグループにわかれてフォーメーション通りに歌を歌いながら踊ります。
第7回	テスト	各グループごとにクリスマスナンバーを発表してもらい、6回の授業で学んだことをテストします。

クォーター末試験評価方法

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。キャラクターやMCのテーマパークでの役割を理解しているかを評価していきます。またグループにわかれての発表することによって協調性があるかも求められます。積極的に授業に取り組んでいきましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業公演演目①	卒業公演演目で選曲された曲のイメージを理解しながら振付を覚えます。
第2回	卒業公演演目②	卒業公演演目で選曲された曲のイメージ通りに踊ることを学んでいきます。
第3回	卒業公演演目③	卒業公演演目曲で自分のポジションを覚えてイメージ通りに踊ります。
第4回	卒業公演演目④	卒業公演演目曲で自分のポジションを全体のフォーメーションを理解しながら踊ります。
第5回	卒業公演演目⑤	実際に本番で使用する小道具やコスチュームを着用して演目曲を踊ります。
第6回	卒業公演演目⑥	本番通りのコスチュームにあわせてヘアやメイクを実際にして演目曲を踊ります。
第7回	卒業公演演目⑦	本番を想定してヘアメイク、衣装を着けて踊ります。最終チェックをします。
第8回	テスト、発表	卒業公演でお客様に感動してもらえるようなステージを目指して発表していきます。

学期末試験評価方法

出席50%、平常30%、テスト20%で算出します。卒業公演のリハーサルを通して、どれだけテーマパークダンスが身に付いたかを評価していきます。また年度の総括です。2年次に向けて自分の将来の目標を立てていきましょう。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ヒップホップ I	瀧本祐一

科目概要

ヒップホップダンスの基礎を中心に学んでいきます。リズムの取り方(アップ・ダウンなど)、体の部分部分を独立させて動かすアイソレーションを覚えていきます。難しく見えるステップも1つ1つ解説しながら頭ではなく体で覚えていきます。

到達目標

リズムトレーニングではアップとダウンの違いを理解できるようにします。アイソレーションは部分的に独立させて動かすにはどこを意識しなければならないかを考えながら行い体に染みつかせていきます。それだけが単体で出来るようになったら振付に反映できるようにしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング	基本中の基本のアップとダウンを覚えます。アップとダウンを行いながら2ステップ、4ステップなども行っていきます。
第2回	アイソレーション	首、胸、肩、腰のアイソレーションを覚えます。どこに力を入れると動かなど体の仕組みも理解します。
第3回	リズムトレーニング & アイソレーション	リズムキープをしたままアイソレーションを行っていきます。2つの事を同時に出来るように反復練習します。
第4回	ステップ練習①	ヒップホップの代表的なステップを覚えていきます。ただステップを踏むのではなくリズムキープが出来るように練習します。
第5回	ステップ練習②	リズム重視のステップを覚えます。リズムキープが出来る事が目標で更にアイソレーションも入れられるようにしていきます。
第6回	おさらい	ここまでで習った事を応用した振付を覚えて自分なりのヒップホップを表現していきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	短い振付を覚えて少人数ずつ発表していきます。アドバイスをし自分の動きの幅を広げていきます。

クォーター末試験評価方法

出席40%、試験30%、平常点30%

アップとダウンの違い、アイソレーションを理解できているか、ステップもただ踏むのではなくリズムを理解しながら踏めているかを見ていきます。また、日頃の態度(遅刻、マナーなど)も重要視していきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習①	リズム取りとアイソレーションの向上をしていきます。自分で理解して使い分けが出来ているか確認していきます。
第2回	復習②	リズムキープをしたままステップの練習をしていきます。アップなのかダウンなのか自分で感じながら練習していきます。
第3回	3つの動きの確認	アイソレーションを使いリズムキープしたままステップ練習をしていきます。3つの動きを同時に出来るか確認していきます。
第4回	ステップの応用	今まで習ってきたステップの応用をしていきます。アップ・ダウンと2つのリズムで同じステップ練習を行っていきます。
第5回	ステップ練習③	リズムが複雑なステップを覚えます。しっかりとリズムを刻みながらステップが踏めるように練習していきます。
第6回	技練習①	ヒップホップで使われる技を覚えていきます。形、流れを理解して正しい形で技が出来るように練習します。
第7回	技練習②	前回学んだ技を振付の中で行えるようにしていきます。技単体ではなく流れの中で行えるように練習します。
第8回	試験(学期末試験)	技、ステップが入っている振付を覚えて発表していきます。それぞれが単体にならず1つの流れとして見せられようしていきます。

学期末試験評価方法

出席40%、試験30%、平常点30%

1クォーターで学んだ事を理解して使いこなす事ができているかを評価してきます。また新しいステップや技など最初は出来なくても諦めないで何度も挑戦していく姿勢も評価のポイントとしていきます。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヒップホップⅡ	瀧本祐一

科目概要

ヒップホップをさらに追求していきます。ステップ、ボディコントロール、音に対するアプローチなど学んでいきます。楽曲にあった体の使い方、踊り方を学んで自分の踊りの幅を広げていき、いろいろな表現が出来るようにしていきます。

到達目標

踊りの中で緩急をつけられるようにただ踊るのではなく体の使い方を理解し、いろいろな曲を聴いてその曲に合った踊り方が出来る事を目標とします。ただ体を動かすのではなく自分で意識をして形を表現できるようにしてそれが無意識に出来るようにしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ゆっくりな曲	テンポの遅い曲で踊ります。曲が遅いので、体を大きく使わないと音が余ってしまうのでいつもよりも大きく踊ることを心がけます。
第2回	速い曲	テンポの速い曲で踊ります。曲が速いので、体が流れないように体を締めて正確に踊れるように心がけます。
第3回	違う曲で同じ振りを踊る	曲によって音の取り方ニュアンスが変わってくるのでそれに対応した踊り方が出来るようにしていきます。
第4回	フロアーを覚える	体を痛めないフロアーへの入り方を覚えます。体の使い方、流れを理解してスムーズに行えるようにします。
第5回	フロアーと技のコンビネーション	2クォーターで習った技とフロアーを合わせていきます。単体の動きにならずに流れを意識していきます。
第6回	ステップ・フロアー・技のコンビネーション	ステップ→フロアー→技の流れをスムーズに行えるようにしていきます。1つ1つ単体の動きにならに用い気をつけます。
第7回	発表(クォーター末試験)	ステップ→フロアー→技が入った振付を覚えて発表します。すべての流れを理解しスムーズに行えるようにします。

クォーター末試験評価方法

出席40%、試験30%、平常点30%

自分なりにいいので曲のイメージ、遅い曲、速い曲などその曲にあった踊り分けが出来ているかを評価していきます。フロアー、技は出来なくても怖がらずに挑戦をしていく姿勢があるかを評価していきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	振付①	振付を覚えるスピードを鍛えていきます。少ない振り入れで正確に振付を覚えられるようにしていきます。
第2回	振付②	グループ分けをして振付にフォーメーションをつけていきます。振付だけではなく立ち位置も正確に覚えられるようにしていきます。
第3回	振付③	振付に構成をつけていきます。自分がどのタイミング踊るか理解できるようにしていきます。
第4回	発表	グループ毎に発表をします。人に見られていても自分の踊りが出来ていて正確に踊れるようにしていきます。
第5回	振付④	グループ分けをして前回よりも長い振付を覚えていきます。自分のパートを正確に踊れるようにします。
第6回	振付⑤	振付の中にソロパートを作るのでそこを自分で考えて作ってみます。自分の最大限を出せるようにします。
第7回	振付⑥	踊りこみをしていきます。発表の時に着る衣装を話し合い決めていきます。
第8回	発表(学期末試験)	衣装付で発表を行います。1年間のまとめとしてどんな1年だったか、2年に上がったならどうなりたいか発表します。

学期末試験評価方法

出席40%、試験30%、平常点30%

今まで習ってきた事や応用した振付をグループ毎に覚えて人前で踊る度胸をつけていきます。1人で踊るのではなくグループの皆で踊っていることを感じてチームとして踊っているかを評価していきます。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	舞台制作研究Ⅰ	井上 仁司

科目概要

- ◆1クォーターでは「舞台」にかかわる「用語」を学びながら「舞台」の構造について研究していきます。
- ◆さらに「舞台」使用される「道具」についても学んでいきます。
- ◆2クォーターでは実際に舞台をセットアップし、スタッフワークを学びます。
- ◆筆記用具、ノート類、専用の道具など必要になります。

到達目標

- ◆「舞台にかかわる仕事」の基礎知識を学び取り、「搬出」「搬入」などの実際の作業に活用します。
- ◆学内のホールでセットを組み立て、効率的な作業を進めていきます。
- ◆「仕込み」「バラシ」などの作業が決められた時間内にできるかどうか、スタッフ同士での協力体制を進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要を説明していきますので、ノートを用意しておいてください。これからの予定や必要な持ち物などメモしておきます。
第2回	「舞台の常識」	「劇場」「舞台」などで働く人たちの仕事内容を知り、そこで必要となる一般常識を学んでいきます。
第3回	舞台用語①	「出演する側」の専門用語、舞台、楽屋でのマナーや慣例などを学習し、将来に役立てます。
第4回	舞台用語②	「スタッフ側」の専門用語、作業の手順や道具の名称、使い方などを学び、実践していきましょう。
第5回	舞台構造①	舞台で使用されている道具や材料に触れ、持ち運びや運搬などの手順を学んでいきます。
第6回	舞台構造②	ホールを見学し、実際に「袖周り」や「綱元」「操作版」など舞台袖にあるものを学びます。
第7回	舞台構造③	教室で舞台で使用される道具を使いながら、セットを組み立ててみます。効率の良い作業の手順をやってみます。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席率50%,平常点50%で算出します。
- ◆スタッフワークにはチームワークも必要です、お互いの作業内容を理解しながら協力しあっているか見ます。また、道具や材料など舞台に必要なものの名称やサイズは必ず間違いなく記憶しておきましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ステージ作成①	リリウムを搬入搬出、伸ばした状態で専用のテープを使い固定していく方法を反復練習します。
第2回	ステージ作成②	平台、箱馬、などの道具のサイズや種類を知り、様々な形を作っていきます。決められた時間での作業です。
第3回	ステージ作成③	ホールでの仕込み作業の内容を各自が把握し、作業予定を立てて時間内に実践できるかシュミレーションします。
第4回	ステージ作成④	ホールでの仕込み作業を実際に行います。予定通りに進行できるように各自が自分の作業内容を理解しておきます。
第5回	作品制作とは	具体的な作品のイメージを膨らませ、どのような内容のものを上演するか皆でディスカッションします。
第6回	演出構成方法とは	作品の大まかな概要が決まれば、作品づくりの手順や予定の立て方などを学んでいきます。
第7回	スタッフの選出	様々なスタッフに分かれて、それぞれの役割分担やタイムスケジュールなど確認しあいます。
第8回	配役を決める	作品のスタッフが決めれば今度は配役、キャスティングです。誰がどんな役をするのか選出方法を決めましょう。

学期末試験評価方法

- ◆出席率50%,平常点50%で算出します。
- ◆発表内容や授業に関する取り組み方、積極的な発言や作業などを評価していきます。
- ◆様々な「用語」が正しく理解でき、使いこなしているかもポイントとなりますから、大事な用語などは日頃からノートしておくことが大事です。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	舞台制作研究Ⅱ	井上 仁司

科目概要

◆3、4クォーターでは実際に年末に行う「クリスマス・イベント」に向けての企画・運営・実践まで行います。「パフォーマンス」が出来上がるまでを体験し、スタッフワークやクリエイティブな仕事を理解し、万で行きましょう。「舞台は一人では作れない」、身近に感じられるはずです。

到達目標

◆企画段階では積極的に発言し、学内のスケジュールを参考にしてしっかりとした予定がたてられるかが大事なこととなります。予定通りに進行できるよう全員で協力します。
◆次に内容です。「お客様に見せるパフォーマンス」がイベントとして運営できるよう全員で協力します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	イベントを企画する	5301教室を利用したクリスマスのイベントを企画します。まずは本番までのスケジュールを確認します。
第2回	イベントを制作する	学内スケジュールを参考にして、イベントの名前や日時など具体的に決めていきます。
第3回	イベントの構成を作る	どのような内容するか、話し合いながらタイトルや選曲候補などを絞っています。
第4回	演出プランを立てる	見る人に何を伝えたいのかを明確にして、作品のテーマになることなども視野に入れながら計画します。
第5回	スタッフを決める	各スタッフが何をするのかを把握して自分が担当する係の仕事を理解します。
第6回	配役を決める	ストーリー中心に展開するような作品の場合「キャスティング」が必要となります。
第7回	リハーサルの計画	イベント本番の日時が決まれば、それに合わせリハーサルスケジュールを立て、進行していきます。

クォーター末試験評価方法

◆出席50%平常50%で算出します。
◆活発な意見交換や協力体制ができているかを見て参考にします。
◆遅刻、無断欠席などはないかを見ます。ルールや時間、スケジュールを毎回確認することが大切です。「連絡、報告、相談」は基本です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品制作①	脚本の読み合わせ、あるいは構成台本の進行表を全員で確認します。一つ一つのシーンをイメージしていきます。
第2回	作品制作②	シーンに合わせた選曲をします。選曲出来たら曲順を決めて、できるものから歌稽古を始めます。
第3回	作品制作③	歌稽古の次は振付ステージングに入ります。「ショー」にするのか「芝居」にするのかで作業は変わります。
第4回	作品制作④	ステージ衣装を決めていきます。物によって作成しなければならぬものも出てきます。
第5回	作品制作⑤	問題点の修正をしていきます。演出プランやスケジュールにあった進行ができているか確認します。
第6回	場当たり	道具やセットなどの位置を図り、アクティングエリアを確認して「場ミリ」していきます。
第7回	ドレスリハーサル	衣装を着けての通し稽古です。問題ある箇所はすぐに是正し、ひとつひとつクリアしていきましょう。
第8回	作品発表(試験)	イベント本番当日です。自分に与えられた仕事をミスなくこなし、全員で大きな達成感を味わう喜びを感じます。

学期末試験評価方法

◆出席50%平常50%で算出します。(欠席など多い場合はレポート提出など)
◆活発な意見交換や協力体制ができているかを見て参考にします。
◆遅刻、無断欠席などはないかを見ます。ルールや時間、スケジュールを毎回確認することが大切です。「連絡、報告、相談」は基本です。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ソルフェージュ I	小笠原 貞宗

科目概要

元来、音楽に必要とされる能力は、読譜力、ソルフェージュ力、アンサンブル能力、即興演奏力、暗譜力など多岐にわたります。特に基礎段階での読譜とソルフェージュは、他の能力を支える土台となり重要なものです。この授業では、音程・リズムの識別力を養いながら音楽全体の理解を深めるための理論・実践トレーニングも展開し、より良い音楽表現につながる実力の獲得を目指します。

到達目標

まずは、楽譜が正しく読めること。視唱を通じて正確に表現できるかが問われます。次に、耳で正確に音楽を聴きとることができるのか。その際は、旋律、リズム、和音の要素に分けて到達レベルが問われます。より高度な目標として、短い曲を作曲することで創作力も身につけます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「音楽の三要素」を学びましょう！	音の種類・音楽の三要素・倍音・五線譜・音部記号について学びます。これを知らないことには、前に進みません。
第2回	「音楽の原理1」を知りましょう！	ドイツ音名・臨時記号・音符・休符について学びます。音の名前は、ドレミだけではありません。ドイツ音名、英語音名などを覚えましょう。
第3回	「音楽の原理2」を知りましょう！	小節・リズム表記・拍子について学びます。この辺の知識は楽典に入る部類ですが、一緒に関連付けて身に付ける必要があります。
第4回	「音楽の原理3」を知りましょう！	音程(長短・増減)について学びます。まずは、半音(短二度)、全音(長二度)からスタートして、オクターヴ内の全ての音程をマスターします。
第5回	「音楽の原理4」を知りましょう！	音階(長・短・全)・調号について学びます。シャープ、フラットが付く全ての調、音階について、一気に覚えましょう。コツも伝授します。
第6回	記譜上の約束事を確認いたしましょう！	速度表示・リピート記号・強弱・楽語について学びます。楽典の本にも詳しく書かれてある事柄ですが、必要に応じて勉強していきます。
第7回	「まとめ」をしっかりやって身に付けよう！	1クォーターで学習した内容のまとめ。小テストを実施します。小テストの結果、自分がどこまで理解し、何が足りないかを知ってもらいます。

クォーター末試験評価方法

与えられた課題を継続的にトレーニングしているかをチェックします。ひとりずつ実施します。例として、短く区切った音階や音型を、全調で歌う。その際、調号、音名も答えてもらいます。一人ずつ行うので、オーディションに慣れる経験にもなる筈です。

実技試験50% 出席30% 五線譜ノート20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「和音1」を学びましょう！	和音の種類(長三和音、短三和音、増三和音、減三和音)を学びます。耳で聴いて、和音の種類の違いが分かることが理想です。
第2回	「和音2」を学びましょう！	和音の基本形、転回形を学びます。実際の音楽の中では、和音はさまざまな形に変化しています。数多くの例に触れましょう。
第3回	「和音3」を学びましょう！	コード記号の初歩、カデンツを学びます。ポピュラー音楽の便利なコード記号に早く慣れましょう。カデンツの基本も覚えましょう。
第4回	「和音4」を学びましょう！	和音連結のルール、面白さを学びます。音楽は流れです。その中で和音がどういう約束で連結されるのか、知ってください。
第5回	「音楽の原理5」を知りましょう！	音楽の現場でも不可欠な調判定を学びます。調性音楽は、どの瞬間を切り取ってもその瞬間には決まった調が必ずあります。
第6回	「音楽の原理6」を知りましょう！	転調と借用の違いを学びます。借用が長く続けば、転調したと判断されますが、その境界線は微妙です。その機微を学びましょう。
第7回	「移調」に慣れ、自在に使いこなそう！	移調譜の作り方、固定ド・移動ド唱法を学びます。移調は機械に頼らず自分の手で行うことが大切です。
第8回	「まとめ」をしっかりやって身に付けよう！	春学期で学んだ内容をテストします。場合によっては、旋律聴音、リズム聴音、移調譜の作成が試験内容になることがあります。

学期末試験評価方法

学期末試験は、ペーパーテストになります。後日、採点したものが各自に返却されます。この期末試験は大変重要です。耳の正しさ、記譜の正確さが厳しく問われますので、この試験までに、各自が自覚的にトレーニングを積んでおくことが不可欠になります。

期末試験 50% 出席 30% 五線譜ノート 20%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	小笠原 貞宗

科目概要

1・2クォーターで学んだ内容を基礎に、さらに音楽的に高度なものを求めて、ソルフェージュ力を高めます。よりレベルの高いトレーニングを課題にします。関連のミュージカル作品の曲の分析も行います。理論的なことを学ぶのは、実際の曲に応用することが目的です。そうすることで、未知の新曲に対する把握力が向上します。

到達目標

楽譜がある程度読めるようになったら、並行して、耳のトレーニングも欠かせません。最近では昔ほど、手書きで楽譜を書くことが減りましたが、そうは言ってもやはり自分で書くことで、大事なことが身につきます。聴音(旋律、リズム、和声)を実践して、より高度な能力の獲得を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「非和声音」を詳しく知ろう！	旋律には、和声音と非和声音があること、各種の非和声音について学びます。経過音、倚音、刺繍音、逸音、先取音、繋留音など、です。
第2回	「新曲視唱1」でしっかり音を取ろう！	2度～4度音程を中心に書かれた課題を歌います。歌えないことには、ソルフェージュの力は発揮されません。大きな声で歌いましょう。
第3回	「新曲視唱2」で難しい曲にも挑戦しよう！	5度～8度音程を中心に書かれた課題を歌います。音程が離れた旋律は音が取りにくいですが、具体的に、何度飛ぶのかを意識してください。
第4回	「新曲視唱3」でより耳を働かせてみよう！	2声で書かれた課題を歌います。二人、三人で組んで行うのが理想的ですが、片方をピアノで弾き、もう片方を歌えば、一人でも可能です。
第5回	「旋律聴音1」でやさしい曲から書き取り	まずは、調号のつかないハ長調・イ短調から書き取りに慣れていきます。何でもいから、どんどん書きましょう。経験の数が大切です。
第6回	「旋律聴音2」で調号、拍子の変化を	調号がつく、ト長調・ホ短調・ヘ長調・ニ短調へと進んでいきます。様々な調に耳がついていけるように訓練します。
第7回	「まとめ」をしっかりやって身に付けよう！	3クォーターで学んだ内容を復習しながら、小試験を実施します。この日までには、何種類かのトレーニング課題が出ています。その中から。

クォーター末試験評価方法

与えられた課題を継続的にトレーニングしているかをチェックします。ひとりずつ実施します。例として、短く区切った音階や音型を、全調で歌う。その際、調号、音名も答えてもらいます。普段からドイツ語、英語での音名、調名を言えるように訓練しているかどうかがこの日に判明します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「リズム聴音1」をしっかりやろう！	通常のリズム聴音から、記憶して書くスタイルまで。4分の2、4分の3、4分の4、8分の6などの拍子で書かれたリズムを書きとります。
第2回	「リズム聴音2」をしっかりやろう！	通常のリズム聴音から、記憶して書くスタイルまで、4分の2、4分の3、4分の4、8分の6などの拍子で書かれたリズムを書きとります。
第3回	「和声聴音1」こそ、本当のソルフェージュ	同時に鳴る音の重なりを聴き分けることを学びます。旋律→リズム→和声という形で能力が開けていく予定です。
第4回	「和声聴音2」こそ、本当のソルフェージュ	各種類の和音を区別するトレーニングを実践します。長三和音、短三和音、増三和音、減三和音を聴き分けましょう。
第5回	「和声聴音3」こそ、本当のソルフェージュ	カデンツの違いを聴き分けるトレーニングを実践します。トニカ、ドミナント、サブドミナントの働きをよく知ることが大切です。
第6回	「旋律聴音3」で転調、借用和音入りを	より高度な転調あり、借用和音入りの課題を学びます。音楽的に豪華な旋律の仕掛けをよく理解しましょう。
第7回	「旋律聴音4」で伴奏の和声付けを	課題の旋律に、より良い和声を付けるにはどうしたらいいか、考えます。作曲をするにも、和声付けが基本の能力となります。
第8回	「まとめ」をやってしっかり身に付けよう！	秋学期で学んだ内容をテストします。場合によっては、旋律聴音、リズム聴音、移調譜の作成が試験内容になることがあります。

学期末試験評価方法

学期末試験は、ペーパーテストになります。後日、採点したものが各自に返却されます。大きく三つの課題が出ます。①旋律聴音②リズム聴音③移調譜の作成です。限られた時間内でどれだけの力が発揮できるか、
 期末試験 50% 出席 30% 五線譜ノート 20%

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	ミュージカル研究Ⅰ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せもっています。そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けており、独特のリズム、フレージング、サウンド、グルーブ感を持っています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標

1クォーターでは、ミュージカルの成り立ちとその初期の作品をインプットし、クラシック、ブルース、ジャズのビート、サウンド感、音楽の特徴を体感します。2クォーターではトニー賞受賞作品、ブロードウェイミュージカルの黄金期の作品などを学習し、知識の裏付けのある歌唱を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミュージカルの成り立ちと音楽の変移	ミュージカルの成り立ち、初期作品の音楽的特徴を学び、現在ロングランされている作品までのおおよその流れを勉強します。
第2回	初期(30年代)の作品概要と音楽的特徴①	ミュージカル5大作曲家の作品「ショウ・ボート」のクラシック音楽的要素のある曲とアメリカ音楽的要素のある作品を勉強します。
第3回	初期(30年代)の作品概要と音楽的特徴②	「パリのアメリカ人」を通し、ガーシュウインの音楽のルーツ、ラグタイム、ブルーノート、そしてジャズ音楽を勉強します。
第4回	初期(30年代)の作品概要と音楽的特徴③	コール・ポーターが作曲した「エニシング・ゴーズ」を歌って、ジャズのリズムとノリを楽理と実技の両面から理解していきます。
第5回	ミュージカル黄金期(40年代)の作品概要①	リチャード・ロジャース&オスカー・ハマースタイン2世の作品「オクラホマ！」を鑑賞し、ダンスのドラマの効果を学びます。
第6回	ミュージカル黄金期(40年代)の作品概要②	ロジャース&ハマースタイン作品で活躍したミュージカルスターについて過去の映像を見ながら勉強し、インプットします。
第7回	1クォーター末筆記試験の実施	1クォーターの授業で学習した内容について記述式、及び論述式で試験をし、理解度を確認します。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 試験点 30%
平常点としては、授業内での積極性や向上心、小テストの結果で評価します。また、筆記試験は、記述式論述式試験です。内容を理解し考え、自分の言葉で記述することが肝心です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新しい才能が生まれた50年代作品とカリスマたち①	「ウエスト・サイド物語」を鑑賞し、新しいミュージカルを創り上げた天才たちとその作品の特徴について勉強します。
第2回	新しい才能が生まれた50年代作品とカリスマたち②	作品の音楽的特徴をつかみ、モチーフとそれがもたらすドラマ的効果をシーンごとに具体的に探り、検証します。
第3回	第73回トニー賞のみどころを鑑賞	トニー賞について学びます。第73回トニー賞の映像を鑑賞しながら、受賞作品、俳優、作曲者などをインプットしていきます。
第4回	トニー賞受賞作品概要と音楽的特徴	トニー賞受賞作品、ノミネート作品などからひとつ作品を選び、あらすじ、登場人物、音楽のジャンル感などを学びます。
第5回	トニー賞受賞作品を歌ってみよう①	選んだ作品から1曲を選曲し、そのシーンを理解し、キャラクターとその心情を推察し、実際に歌います。
第6回	トニー賞受賞作品を歌ってみよう②	グループに分かれ、音楽の特徴をつかんでいるか、シーンを理解し裏付けのある表現ができているか確認します。
第7回	トニー賞受賞作品を歌ってみよう③	グループに分かれクラス内で発表します。お互いのパフォーマンスを見て、作品へのアプローチを更に高めます。
第8回	春学期末実技試験とそのフィードバック	グループ、またはソロで歌唱、及び作品やシーン、音楽について質問をし、実技試験とします。フィードバックも授業内に行います。

学期末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 実技点 30%
平常点は、授業内に作品、音楽についてどう感じるか、などを発言してもらい、その積極性や向上心を測ります。また、春学期実技点としては、作品を理解して実践を試みているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	ミュージカル研究Ⅱ	松山 由佳

科目概要

ミュージカルは様々な音楽ジャンルの要素を併せもっています。そして、その作品は歴史的背景、思想民族、宗教など社会的影響を色濃く受けており、独特のリズム、フレージング、サウンド、グルーブ感を持っています。この科目は、ミュージカル作品を主に音楽知識の面からアプローチしていく授業です。

到達目標

3クォーターでは60年代の時代背景とミュージカル作品との関係性、70年代のミュージカル作品ではロックの8ビートやシャッフルを理論的、実践的に理解します。4クォーターでは、80年代BW作品からはR&B、ソウルからディスコサウンドまでを学び、WE作品からは世界的名作の数々をインプットします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	60年代ミュージカル作品概要と音楽的特徴①	「マイ・フェア・レディ」からイギリスの階級文化を学び、シーンを理解し、60年代に活躍したミュージカルスターを学びます。
第2回	60年代ミュージカル作品概要と音楽的特徴②	「屋根の上のヴァイオリン弾き」を鑑賞し、ユダヤ人の生活、思想、宗教を学び、民族色の強い音楽とその色合いを体感します。
第3回	60年代ミュージカル作品概要と音楽的特徴③	「キャバレー」の時代背景を学び、作品が持つ2つの世界がどのように融合していくかDVDを観ながら検証します。
第4回	70年代ミュージカル作品概要と音楽的特徴①	「ジーザス・クライスト・スーパースター」の「ロック・オペラ」形式とアンドリュー・ロイド＝ウェバーについて学びます。
第5回	70年代ミュージカル作品概要と音楽的特徴②	8ビート、シャッフル、スリーコード、特徴的なロックンロールの歌唱方法を「グリース」を鑑賞し、実際に歌ってみます。
第6回	70年代ミュージカル作品概要と音楽的特徴③	「コーラス・ライン」の作品の成り立ち、作品の趣旨と形態を理解し、コンセプトミュージカルという分野を学びます。
第7回	3クォーター末筆記試験の実施	3クォーターの授業で学習した内容について記述式、及び論述式で試験をし、理解度を確認します。

クォーター末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 試験点 30%
 平常点としては、授業内での積極性や向上心、小テストの結果で評価します。また、筆記試験は、記述式論述式試験です。内容を理解し考え、自分の言葉で記述することが肝心です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	80年代BWミュージカル作品の音楽的特徴①	「ドリームガールズ」の作品内容を理解し、「ワン・ナイト・オンリー」でR&B、ソウルフルなバラードを歌ってみます。
第2回	80年代BWミュージカル作品の音楽的特徴②	「ワン・ナイト・オンリー」をディスコサウンドで歌ってみます。ソウルフルなノリを感じつつ、ダンスミュージックの切れ味を出します。
第3回	80年代ウエストエンドミュージカルの台頭	BWからWEへ、大きく変化していった時代の流れ、また、WEミュージカルを牽引していった天才たちとその作品をインプットします。
第4回	80年代WEミュージカル作品と音楽的特徴①	「レ・ミゼラブル」のDVDを鑑賞し、作品について、時代背景、音楽のドラマ性、キャラクターの心情などを探ります。
第5回	80年代WEミュージカル作品と音楽的特徴②	「レ・ミゼラブル」の作品から1曲を選曲し、キャラクターの心情を理解した裏付けのある表現を目指し、歌唱します。
第6回	80年代WEミュージカル作品と音楽的特徴③	「オペラ座の怪人」のDVDを鑑賞し、ロイドウェバーの音楽のドラマ性とモチーフの効果的な使い方について学びます。
第7回	80年代WEミュージカル作品と音楽的特徴④	「オペラ座の怪人」の作品から1曲を選曲し、キャラクターの心情を理解した裏付けのある表現を目指し、歌唱します。
第8回	秋学期末実技試験とそのフィードバック	授業内で勉強した1曲を歌唱、作品やシーンについての質問をし、実技試験を実施、その後フィードバックを行います。

学期末試験評価方法

出席点 30% 授業内での平常点 40% 実技点 30%
 平常点は、授業内に作品、音楽についてどう感じるか、などを発言してもらい、その積極性や向上心を測ります。また、秋学期実技点としては、作品を理解して実践を試みているかを重要視します。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
春	パフォーマンス・プレゼンテーション I	井上 仁司

科目概要

- ◆1、2クォーターでは「パフォーマンス」ということを中心に考え、実践していきます。
- ◆簡単なシアターゲームなどをやってみて、人前に出ることに慣れましょう。
- ◆3名ほどのグループに分かれて、それぞれパフォーマンスを行い、それを見ながら感想やアイデアを出し合います。

到達目標

- ◆しっかりと自己紹介、挨拶はできるようにします。
- ◆人とのコミュニケーションが問題なくとれるようにします。
- ◆人のパフォーマンスを見て、感想やアドバイス、など意見交換できるようになります。
- ◆互いに協力しパフォーマンスやそれについての反省ができるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自己アピールとは	まずは大きな声であいさつすることから始めていきましょう。それぞれの自己紹介をします。
第2回	パフォーマンスとは	簡単なシチュエーションゲームなどしてお互いにコミュニケーションを図り自分のパフォーマンスアップにつなげます。
第3回	仲間と何ができるか	3~4人の少人数のグループ分けをしますから、各グループで何を発表するのかを相談します。
第4回	どう見られているか	他のグループのパフォーマンスを見て、何かヒントをつかみ、活発に意見交換しましょう。
第5回	シーンはどうやって作る	シアターゲームの中でワンシーンをアドリブで作るということを学んでいきます。積極的に取り組みます。
第6回	エリアはどうやって作る	アクティングエリアの設定や導線など演劇で必要事も学んでいきます。簡単なパントマイムなどもやってみましょう。
第7回	キャラクターはどうやって決まる	個性、パーソナリティ、キャラクターなど孤児が持つ魅力を解明しつつ方を学びます。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席50%平常50%で算出します。
- ◆積極的に授業に取り組んでいるかどうか、も評価につながります。
- ◆たとえ自分のパフォーマンスが優れたものであっても、まだまだ完全ものとは言えません。人の実演を参考に自分への課題が見えているかどうかも評価のポイントとなります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グループパフォーマンス①	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第2回	グループパフォーマンス②	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第3回	グループパフォーマンス③	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第4回	グループパフォーマンス④	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第5回	グループパフォーマンス⑤	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第6回	グループパフォーマンス⑥	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第7回	グループパフォーマンス⑦	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第8回	グループパフォーマンス⑧	各グループでの発表となります。3~5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。

学期末試験評価方法

- ◆出席50%平常50%で算出します。
- ◆積極的に授業に取り組んでいるかどうか、も評価につながります。
- ◆たとえ自分のパフォーマンスが優れたものであっても、まだまだ完全ものとは言えません。人の実演を参考に自分への課題が見えているかどうかも評価のポイントとなります。

ミュージカル学科

学期	科目名	担当講師
秋	パフォーマンス・プレゼンテーションⅡ	井上 仁司

科目概要

- ◆3、4クォーターでは「パフォーマンス」ということを中心に考え、実践していきます。
- ◆簡単なシアターゲームなどをやってみて、人前に出ることに慣れましょう。
- ◆3名ほどのグループに分かれて、それぞれパフォーマンスを行い、それを見ながら感想やアイデアを出し合います。

到達目標

- ◆しっかりと自己紹介、挨拶はできるようにします。
- ◆人とのコミュニケーションが問題なくとれるようにします。
- ◆人のパフォーマンスを見て、感想やアドバイス、など意見交換できるようになります。
- ◆互いに協力しパフォーマンスやそれについての反省ができるようにします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グループパフォーマンス⑨	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第2回	グループパフォーマンス⑩	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第3回	グループパフォーマンス⑪	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第4回	グループパフォーマンス⑫	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第5回	グループパフォーマンス⑬	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第6回	グループパフォーマンス⑭	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第7回	グループパフォーマンス⑮	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。

クォーター末試験評価方法

- ◆出席50%平常50%で算出します。
- ◆積極的に授業に取り組んでいるかどうか、も評価につながります。
- ◆たとえ自分のパフォーマンスが優れたものであっても、まだまだ完全ものとは言えません。人の実演を参考に自分への課題が見えているかどうかも評価のポイントとなります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グループパフォーマンス⑯	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第2回	グループパフォーマンス⑰	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第3回	グループパフォーマンス⑱	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第4回	グループパフォーマンス⑲	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第5回	グループパフォーマンス⑳	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第6回	グループパフォーマンス㉑	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第7回	グループパフォーマンス㉒	各グループでの発表となります。3～5分程度のパフォーマンスを見せてもらいます。
第8回	総括	来年度向けのガイダンスと成果の評価をします。各自目標にしているオーディションをイメージしましょう。

学期末試験評価方法

- ◆出席50%平常50%で算出します。
- ◆積極的に授業に取り組んでいるかどうか、も評価につながります。
- ◆たとえ自分のパフォーマンスが優れたものであっても、まだまだ完全ものとは言えません。人の実演を参考に自分への課題が見えているかどうかも評価のポイントとなります。